

日本の戦時プロパガンダ —伝単を中心に

大妻女子大研究所特別研究員

里見 脩

Q1 情報、プロパガンダ

Q2 情報戦

Q3 ウクライナ戦争の情報戦

Q4 日本の戦時プロパガンダ(1)同盟

Q5 同(2)伝単

Q1 情報 プロパガンダ

●情報(英 Information Intelligence 独 Nachricht)

「情報」⇒ クラウゼヴィッツ『戦争論』 森鷗外『大戦学理』 「敵情報報告」

2つの機能

受信(収集) ⇒ スパイ(諜報) レーダー 暗号解読

送信(伝達) ⇒ プロパガンダ

口承的⇒筆記的⇒ 印刷的(15世紀)⇒電機的(19世紀)⇒IT的(20世紀)

●プロパガンダ

「プロパガンダ」(Propaganda) 「政治宣伝」

⇒ 「特定の政治的目的を持って、計画的、組織的に、個人あるいは組織に影響を与え、意図した政治目的へ、対象とした個人あるいは組織を導く、説得コミュニケーション」

ローマ法王ウルバン8世 1633年 伝道本部(Congregatio de propaganda Fide)

「接ぎ木」「聖句・伝道」

フランス革命1789年 「啓蒙」

プロパガンダと「PR(広報)」の関係

広報と弘報 満鉄『宣撫月報』

「プロパガンダの3原則」 (道徳とは無関係 信頼性 限界性)

「6技法」 (心のヒダ 感情・女性と子供の活用 主体の隠蔽 安易な虚偽の回避
ブーメラン効果の回避 相殺)

Q2 情報戦

● 宣伝戦 思想戦 イデオロギー戦 サイバー戦

目的 「自国の主張の正当化 敵国を悪イメージに染める」 ⇒ 国際世論の存在

「第一次世界大戦」 ⇒ 「第二次世界大戦」 ⇒ 「冷戦」 ⇒ 「ポスト冷戦」 ⇒ 「ウクライナ戦」

「第一次大戦」 「クルー・ハウス」とベルギー人の子供

「第二次大戦」ナチスと日本 大本営発表

「冷戦」 ベルリンの壁崩壊とソニー製ラジオ 対東欧「自由ヨーロッパ放送」(RFE)

Q3 ウクライナの情報戦

● 戦争を形成する「3M」 Military(軍事力) Money(経済力) Media(情報力)

⇒ ロシア軍と日中戦争・日本軍の類似性

Military(軍事力)⇒ 泥と情報 米 NATO 極秘偵察機がロシア軍を丸裸に

Media(情報力)⇒ サイバー戦 「情報(プロパガンダ)のシャワーを浴びせる」

ミハイル・フォードロフ副首相・デジタル担当相 IT 軍 SNA

米民間衛星、「スター・リンク (Star link)」 スペース X 社の民間衛星

一枚の写真、一つの出来事が勝敗を決する

Q4 日本の戦時プロパガンダ(1) 情報局と同盟

● 日中戦争の敗戦⇒ 宣伝下手

田中上奏文 上海南駅の赤ん坊 映画「大地」

太平洋戦争のプロパガンダ組織

⇒ 内閣情報局 陸海軍 同盟 日本放送協会 (NHK)

「日米英戦争ニ対スル情報宣伝方策大綱」昭和16年12月8日

内閣情報局⇒設立までの政府の情報組織 近衛首相の存在

第一次大戦の英モデル⇒情報省とロイター通信社

同盟⇒1936(昭和11)年—45(昭和20)年 9年間

表の顔(報道機関 新聞社で構成 公益法人)

裏の顔(対外プロパガンダ機関 国策代行 政府補助金)

Q5 日本の戦時プロパガンダ(2) 伝単

● 大本営陸軍部参謀本部第二部 第八課

⇒ 対敵ラジオ放送と伝単

「敵国の兵士あるいは国民の戦闘意欲を喪失せしむことを意図し、投下・散布・配布されるビラ」

伝単制作の経緯と陣容

太平洋戦争 約170種 1350万枚 推計(長谷川中央『紙の爆弾』1990年)

シンガポール攻略戦 (対英軍インド人兵士)⇒部隊からの離脱 反乱の教唆煽動

ガダルカナル戦 (対米兵士)⇒厭戦の喚起 反乱の教唆煽動

ニューギニア戦 (対豪兵士)⇒米英軍との離反の喚起

インパール戦 (対英軍インド人兵士)⇒部隊からの離脱 反乱の教唆煽動

風船爆弾での使用?

「エロ伝単」春画 カラー(極彩色) 伝単と電探

「江戸川乱歩」作 伝単—「白人将校の殺し方教えます」

情報に疎い国は亡ぶ